

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	4370101455
法人名	医療法人 金澤会
事業所名	グループホーム あおばの家
訪問調査日	平成 19年 11月 13日
評価確定日	平成 19年 12月 20日
評価機関名	特定非営利活動法人 ワークショップ「いふ」

#### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4370101455
法人名	医療法人 金澤会
事業所名	グループホーム あおばの家
所在地 (電話番号)	〒860-8515 熊本市島崎2丁目29-5 (電 話) 096-324-0537

評価機関名	特定非営利活動法人 ワークショップ「いふ」
所在地	熊本市水前寺6丁目41-5 106
訪問調査日	平成19年11月13日

【情報提供票より】(19年11月13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成10年10月18日(1号館)、12年5月22日(2号館)、16年4月2日(3号)		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	人	常勤	15 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 16.03 人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄 骨 造り	
	1 階建て	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	34000・59000・79000	その他の経費(月額)	13,200 円
敷 金	有(68000、118000、158000円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要( 10月8日現在

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3	名	要介護2	2	名
要介護3	6	名	要介護4	3	名
要介護5	4	名	要支援2		名
年齢	平均	81.9 歳	最低	64 歳	最高 98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	青磁野リハビリテーション病院
---------	----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人設立から60余年。地域医療を担ってきたこれまでの信頼関係の上に、「地域と共にある医療と福祉」という理念が強固な地域ネットワークを作り上げており、熊本市のグループホーム第一号としてオープンした。母体・病院と老健施設に見守られる形で立地するホームは、各棟6名の利用者が共に生活する3ユニットで構成され、職員は利用者と同数の18名で、ゆとりある配置となっている。静かな住宅地に門扉はひとつで庭を挟んで三つの家が並び、通りに出ると商店街でスーパー・喫茶店・食堂・花屋・美容院などがあり、利用者も散歩がてら出掛けることができる。三つの家はそれぞれに個性があり、利用者同士が仲間・家族として安定した時間を過ごしている。医療と地域・ボランティアとの連携も強く、家族会開催時には共に食事を楽しむ仕組みや、高齢化・介護予防など勉強する機会も作られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	職員の思い込みや連絡もれを防ぐために、見難かった申し送りノートの改善が求められ、新たに申し送りシートを作成。食事・排泄など項目別に記載することで見やすくし、口頭での連絡と併せることで状況判断が的確に行なえるようになった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	自己評価を全員で取り組むことで、全体を客観的に見ることができ、やっていること・やっていないこと、気付きを引き出すことが出来ている。更に、それぞれの評価を全員に回覧することで項目毎の再確認を行い、さらに充実した介護の対応としている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議は行政からの出席も加え18名が参加し、3ヶ月に1回の定期開催としている。会議では、参加者へ事業の理解を深めるためにホームの一日をビデオで紹介したり、ホームの成り立ち・申し込み状況を伝えるなど、回を重ねる毎に「地域密着型介護施設」としての役割を詳しく伝えている。参加者からの意見や会議の状況は集約して報告書にし、ホーム内に掲示されており、誰でもが確認できるシステムになっている。利用者家族の参加も得られて、充実した会議となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	ホームには家族会があり、勉強会や食事会が開催されているが、全体の家族会とは別にユニット毎に家族の意見を聞く対応もあり、細かな意見交換を大切にしている。また、三ヶ月に一回「あおばづく」と題した会報を発行して、ホームでの利用者の様子や話題を伝えており、通常の状況報告とは一味異なった親近感のある意思の疎通が図られている。利用者・家族とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、出された意見が目に見える形で伝わるよう努力している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	毎週火曜日に昼食作りと食事介助へ、ボランティアの訪問が10年間続いており、家族の参加もみられるようになる等、形のみではない地域との係わりが形成されている。また、利用者や職員は公園の清掃を毎月2回実施。年2回の町内一斉清掃のほか、祭りにやイベントにも参加し、地域の一員としての交流・連携を大切にしている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームとしての理念に加え、地域医療に係わってきた母体医療法人の「地域と共に」という方針を再認識し、ホーム利用者が家の中だけではなく、地域の一員としての暮らしを支援するための基本としている。利用者の笑顔と安心のある暮らしを支えるための大切な「心」が理念に反映されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は常に名札(職員証明書)を携帯しているが、その裏には理念が記載され、日々のケアの中で常に確認している。また、定期の朝礼では理念を唱和することでその浸透を図り、具体化を話し合うなど、実践へ向けての取り組みが心掛けられている。	○	ホーム前の道路は通学路となっており「子供を守る家」「子供110番の家」などの取り組みや、「おはよう」「いってらっしゃい」などの挨拶運動・声掛け運動など、理念の実践に子供との触れ合いを取り入れた地域交流も期待される。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩・外出・買い物・犬の散歩など、地域の人々との触れ合いはごく自然に展開され、月2回の公園清掃への参加など、地元の人達との交流は多い。職員も夜勤明けの時間を利用して清掃に参加し、地域の中での役割・付き合いの重要性を確認、継続的な関係を保っている。	○	来年は地域コミュニティセンターがオープン予定なので、「あおばの家」コーナーを特設して作品を展示したり、「あおばづく」通信を拡大して掲示するなど、地域の人が通常目にする仕組みを作り交流を深めることも可能と思われ、実現が期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の大きな成果は「全職員が自己評価に取り組むことで、仕事の実情を見直すことが出来た事」とし、計画通りにできていること・できていないことの確認と、新しい気づきがあったことを挙げている。また、それまで見難かった申し送りノートシートに作り変え、確認し易くしてサービスの向上に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三ヶ月に一回開催される運営推進会議では、「あおばの家」の紹介から始め、ホームの仕組み・申し込み方法・ボランティアの受け入れなど、地域密着型介護施設としての役割を地域の人へ理解を促進している。会議の結果はユニット毎のホールに掲示し、家族へも伝わる仕組みを作っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月熊本市の介護相談専門員の来訪があり、職員と共に利用者家族からの話を聞き、思いや実態を理解して介護サービスの質の向上への工夫を話し合っている。また、西保健福祉センター・包括支援センターと情報交換を行ったり、熊本市内26グループホームの連絡会議事務局として、連携・交流に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の金銭状況報告の他、日常の生活状況や健康状況など定期的な報告に止まらず、体調や状況変化が認められた場合はこまめに連絡を取って家族との情報の共有を図っている。また、地域行事や季節の外出の様子など写真で報告し、家族の安心を得ている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は定期的に開催され、家族間の交流の実施するなど意見を出しやすい環境が作られている。どんな意見にも耳を傾け、対応結果を必ず家族に伝える姿勢が、家族からの信頼に繋がっており、意見・苦情を前向きに捉える職員の対応がみられた。	○	家族会でアンケートを実施。家族のストレートな意見も謙虚に受け止め、そのまま報告するなど前向きな姿勢があり、項目ごとの対応も実施されている。今後さらに詳しいアンケートの実施も検討中とのことで、成果に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体法人内の複数事業体との人事交流があり、移動後は管理者がさりげない指導に当たり、利用者には不安を与えない対応がある。入居者に安心感を与える対応は即時行われており、家族への情報提供は三カ月に一回発行の新聞掲載となっている。毎月の報告に添えて「人事異動」or「はじめして！」等、早めの連絡を行うと良いと思われる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎週実施。福祉部勉強会を月二回実施している他、外部研修にも積極的に参加できる機会を作っている。また、有資格者となる目標を持った職員の積極的な参加支援と、偏った職員の参加にならない配慮があり、モチベーションの向上も見られる。さらに、研修参加後は報告書を通して情報の提供と共有化が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の事務局を担当し、二か月毎に勉強会を実施。お互いの情報交換などオープンな会話の中から実務上のヒントを収集している。今後は他ホームとの交換実習を行い、相互のサービスの質向上を目指すことを計画している。	○	すでに、同エリアのグループホームとの交換実習の計画もある。実施後の相互の成果に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所の不安解除のため、自由なホーム内の見学と体験入所を実施し、自宅とホームを往復しながら徐々に馴染んでいく工夫がある。また、申込時に十分な聴き取りを行い、ケアマネジャーとの連携を取っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者が人生の先輩であることを忘れず、利用者の息子・娘・孫として共に過ごす対応がある。その中で本人の楽しみを見つけたり得意分野を引き出す等、日々の生活の中で能力の発揮が行われ、相互に教える体制が構築されている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	三つのホーム毎に利用者の思いと意向調査が実施され、本人の希望に沿った対応への努力がみられる。毎朝の表情・言葉から変化を読み取り、固定化しない日々の対応を検討している。また、遠距離の家族へ毎週電話での連絡を取るなど、常に状況報告しながら意向把握が行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランは職員主導ではなく、利用者の日常生活機能の観察と本人・家族の思いを念頭に、担当者会議で策定される。本人一人の状況だけでなく、他の利用者との共同生活の中での対応が必要なことから、より良い暮らしの質について本人・家族だけでなく他部署からの意見も加えて計画の見直しが図られている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三か月から六か月に一回の介護計画の見直しが実施されているが、期間に拘らず利用者の状態変化時にはプランの修正を実施している。ケアプランありきではなく、日々の状況に対応した介護が実施され、随時の見直し・検討もある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて、外出・外泊など臨機応変な対応がある。また、地域の認知症高齢者が緊急時に利用できる態勢作りとして、三号館では12月から1日3名のデイサービスを実施。新たな需要に応える多機能性のスタートが期待される。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一回母体医療法人理事長の診察が実施され、医療に止まらず介護に関わる見直しや示唆も受けている。その他、掛かり付け医の往診や、歯科など他科受診が必要な入居者についてはFAXや電話連絡後、外来受診の支援を行っている。また、誕生月にバースディ検査を行い早めの健康管理を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去には、本人・家族の納得を得ながら終末ケアに対応し、看取りを行った経験を持つ。看護職が中心になり、終末期の段階に応じてカンファレンスを実施し、情報の共有と意識の統一を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを大切に接することが出来るように、金澤会・法人全体の職員へ「接遇・倫理綱領について」の研修が行なわれている。利用者の介護提供の為に生活暦を把握し活用するが、個人情報を大切に考え、外部へ漏らすことへは厳しく対応されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1号館は賑やか・行動的、2号館はゆっくり静か、3号館はのんびりと好きなことを・・・と、各棟ごとの個性に合わせた時間の過ごし方が見られる。行事を予定していても利用者の意思が基本。意思決定できない利用者へも様子を見ながら参加・不参加を見極め、好きな時間に好きなことが出来る支援が心掛けられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週火曜日、昼食作りと食事介助にボランティアの来訪がある。すでに馴染みの関係が出来た関係で会話も弾み、昼食の準備を入所者と共に楽しげに行っていた。自家菜園の野菜を持参するボランティアもあり、1.2.3号館夫々に異なる献立で職員と一緒に食事に和やかな光景がみられた。	○	季節感を感じる食材選びや誕生会・行事食で食べる楽しみを盛り上げている。今後、利用者の嚥下・咀嚼力低下、体調変化に伴う幅広い食事形態の対応が求められることが考えられ、徐々にメニューの変化・多様化が考えられている。介護度の変化に伴う食事提供の工夫に期待がもたれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は午前・午後に分かれて毎日楽しめる。ほぼ自立している入居者には夜間入浴も対応し、全介助が必要な人もゆっくりと時間に追われることなく入浴が楽しめる対応がある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	1.2.3号館とそれぞれの入居者に合わせた支援が行われ、レクリエーションも各々異なり、片岡劇場・100円ショップ・カラオケ・美術館見学と選択肢も多様。毎朝の庭掃除・新聞取り・犬の世話や夕方のカーテン引き・玄関の鍵掛けなど、自ら役割を決め責任を持った張りのある行動がみられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	犬の散歩・ゴミ出し等、日常にホーム外へと行動範囲も広く、近くのスーパーへの買い物・散歩には、車椅子の利用者も参加し、閉じこもらない外出の楽しみへの支援が行なわれている。月に一度は屋外レクリエーションも企画され、花見・苺狩り・みかん狩り・紅葉見学等、家族へも声掛けし実施されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵はなく、玄関も施錠されておらず、出入り自由となっている。門扉は鍵は掛けられていないが、少し工夫が求められる対応があり、ワンテンポのタイミングで職員が察知し、見守りが可能な仕組みとなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施。地域で共に支えあう方法として、自治会・消防団との協力、運営推進会議での話し合いを行なっている。地域住民とのネットワーク作りと共同の災害時非難訓練等を計画中。	○	グループホームが地域の社会的財産であることから、認知症高齢者にとって、災害時の避難場所としての存在になることが期待される。地域高齢者を含めた非難訓練等が合同で実施されると、さらに良いと思われる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半年毎に管理栄養士による栄養バランスチェックが実施され、食事量は個別に工夫されている。水分補給も毎食時とおやつ時・入浴後と、こまめに確実に対応される。利用者によってはゼリー状での水分補給もあり、夏場は食間2回と夜中の水分補給と、きめこまかな支援がみられた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1.2.3号館はそれぞれに広さも空間のあり方も異なるが、各々の共有空間での自分の定位置が決まっており、スッポリと落ち着く空間になっている。それぞれ太陽の光が充分に入り込む設計になっているが、耀すぎず、落ち着いた照明とカーテンの工夫が施されている。また、居室から一歩出ると、芝生の庭と緑の垣根・花壇が季節を感じさせ、穏やかな気持ちを誘う。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの部屋も使い馴染んだテーブルや椅子、家具などが持ち込まれ、思い出の絵や家族写真・本などが飾られており、利用者毎の雰囲気が漂う快適空間になっている。身体機能の低下で足元が不安定な入居者の部屋には、出入り口の柱やベッド・タンスの間にクッションを取り付け、ふらついても頭や体へダメージを軽減させる等の対応が見られた。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### 〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

### 〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### 〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### 〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム・あおばの家
（ユニット名）	3ユニット
所在地 （県・市町村名）	熊本市島崎2丁目29番5号
記入者名 （管理者）	1号館：永松春美
記入日	平成19年10月18日

地域密着型サービス評価の自己評価票

【あおばの家】<1号館>

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・個人のペースに合わせ、その人らしい生活空間が持てるように接している。 ・家族の思いを受け止め日々のケアに生かすようにしている。 ・笑顔と安心のある暮らしができるような声掛け、雰囲気づくりに心 掛けています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・新人のオリエンテーション時や定期の朝礼の場で唱話することで浸透を図っている。 ・職員証明証の裏に理念を入れていつでも確認できるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・家族の方には、家族の集い、及び「あおばずく」というあおば通信に掲載し理解を得ている。 ・地域の方々には、地域運営推進会議、地域との交流時、見学時に配布し説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩や買い物等の外出の際、積極的に挨拶をしたり立ち話をしたりしている。 ・犬を飼っていることで近隣の方が犬の散歩途中に立ち寄られている。 ・隣近所の理・美容室を利用している。	○	より一層の地域の方々とのお付き合いの推進。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内ゴミ捨て場の清掃当番への参加。 ・地域の清掃や祭事等のイベントに参加。	○	自治会、老人会、地域活動には、より一層積極的に参加していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・開設当初(平成10年10月)より、「運営懇話会」として発足し、現在では「地域運営推進会議」において地域住民の方や、各自治体関係等と情報交換を行い尚一層の充実を図るようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価結果を基に、それらの意義を理解し、具体的な改善に取り組んでいる。 ・自己評価票の作成に当っては、職員全員での考え方、見方を基にまとめ上げ仕上げている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者の日々の生活をビデオに撮り、サービスの実際や雰囲気報告。 ・定期的に開催し、利用者やその家族、地域の関係者から要望、助言を頂き、あおばの家が提供するサービスを明らかにしサービスの質の向上に努めている。 ・会議の結果をホールにご報告書として掲示している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・市より介護相談専門員の方が定期的に来所され、利用者及び家族の方々から話を聞き、その内容のフィードバックで情報を得て職員に回覧し、サービスの質の向上に活かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内、及び福祉部での研修会へ参加し、他職員への情報提供行い、共有を図り支援できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修参加からの情報及び新聞、ニュース等から得た情報は定期的な勉強会で全職員に徹底し防止に努めている。又、管理者は、職員の心理面・ストレス等の観察を常に行っている。	○	・利用者の表情、言動の観察。 ・職員の心理面・ストレス等の観察(管理者として。)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり、契約時に分かりやすく説明し、不安や疑問等を解消した後に契約を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・市より介護相談専門員の方が定期的に来所され、利用者の方々から話を聞き、その内容のフィードバックで情報を得て職員への回覧を通し運営に反映している。 ・日常生活の中での表情などより、いつもと違う場合等は何かがあったのかを聞き取り、それを職員間にて話し合い、ケアに反映させている。		
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・健康状態については面会時、TEL連絡をする時等に状況報告、又検査を実施した場合は検査データを郵送する。 ・金銭管理については個人台帳管理し、月1回台帳に領収書を添付して郵送している。 ・職員の異動については「あおばずく」に掲載し、又「家族の集い」時に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時や担当者会議等、意見を聞く場を設け意見があったときは次に活かすための情報の共有を図り運営に反映させている。 ・並びに「家族の集い」の在り方を各ユニット毎に分かれて行い、より細かな意見交換ができるような形式で行っている。	○	・家族会でのアンケート(意見交換等)の記入。 ・夕食を兼ねた家族会を開催しリラックスした雰囲気の中でコミュニケーションを図り意見等を聞き運営に反映している。 ・「ご意見箱」を設置し、それらの意見を運営に反映させる。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な合同ミーティング及び各館でのミーティングを行い意見の反映を図っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常勤、パートタイマーの職員をシフトにより組み合わせローテーションを組み勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・専門性、年齢、人柄などを考慮し法人内のローテーションによる人選で必要最低限度に抑えられている。 ・代わった場合は、各利用者の性格等を十分に申し送り、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員は定期的及びフォローアップ研修に参加しており、研修報告を通して、他の職員への情報提供、共有を図っている。 ・尚、外部での研修等についても、積極的に参加するよう、又偏った職員での参加にならないように配慮している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月毎(奇数月)実施の、「グループホーム連絡協議会」に参加し、意見交換や勉強会をすることでサービスの質の向上に努めている。	○	他施設への交換実習で他施設のことも知る。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・法人内の親睦会やホーム内の親睦会の開催。 ・個人目標管理で悩みを聴取しストレスの軽減を図る。 ・法人内の臨床心理士への相談。 ・リフレッシュ休暇の有効活用。(年度内＝3日連続休暇制あり)		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・自己目標を立てモチベーションの維持、目標達成できるように、管理者からの助言や指導及び法人からのバックアップ。 ・目標達成度に応じた給与査定。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・体験入所によって不安なく入所頂けるようにしている。 ・自宅や施設等に直接本人に面会に行き、聴く機会をつくっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自由に住居内の見学が出来、説明を受ける事が出来、十分に安心されるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・申し込み時に十分な意見や相談を聞き、担当ケアマネジャーと改めて相談して戴く様に勧めている。 ・担当ケアマネジャーとの情報交換。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・いきなりの入居ではなく、まずは体験入居をして頂く中で、自宅とホームとの行き来を利用しながら徐々に馴染んで戴く様にしている。 ・又、家族ともその間の状況のやり取りを十分に行うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人の入居前の様子等を把握し、話題にし話し合う時間を設け、本人との信頼関係を築けるよう努力している。 ・毎日の生活の中で、職員という立場だけでなく、娘や嫁、又は孫になっている様な気持ちで接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・「家族の集い」時に機会を設け、相談を受けたり、思いを伝えてもらっている。 ・面会時でも不安なことがないかお尋ねしている。 ・本人の日頃の表情、行事への参加状況等はカメラに収め、アルバムにして面会時に見て戴いている。	○	ご家族の気持ちを聞くことは勿論、スタッフ側からもご本人の生活状況等をもっと情報提供し、より一層の信頼関係を築くようにする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・いつでも面会に来て頂けるような声掛けと雰囲気作りを作っている。又、「家族の集い」への参加を呼びかけ多くのご家族の参加をいただいている。	○	ご家族がもっと気軽に参加できる行事を多く作る。又日頃のご利用者の生活を知ってもらう為に面会時にゆっくり過ごして頂ける雰囲気を作る。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族の方と気軽に外出できるよう、又気軽に訪問していただけるような声掛け・雰囲気作りに努力している。 ・時に、友人の方の訪問もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・同じ趣味を持つご利用者には、一緒に作業(レクリエーション)をして頂き、コミュニケーションが取りづらいご利用者にはスタッフが間に入り話題の共有を図っている。 ・常に一人一人の表情・言動に注意し、対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	催し物への参加、呼びかけを掲示により行い、希望があれば自由に参加していただけるような体制としている。	○	・あおばの新聞発行時には、配送にてホームの様子、行事紹介等を発信しても良いかと思っている。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・朝のレクリエーション時に、一人一人との関わりにより表情を観察し、変化があれば検討し対応している。 ・本人の毎日の生活支援の中での読み取りや、家族の面会時に聞く等把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・フェイスシートを作成し活用している。 ・個々の趣味・特技・興味など一覧表を作成し、日常生活に活かしている。 ・入所時には、本人の使い慣れた家具・寝具等を持ってきて置き、今までの家庭での生活環境を維持していかれる様努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・サービス計画、及び実施表の活用 ・業務申し送りシートの活用 ・毎日一緒に生活している中で、本人の言動・表情は常に観察を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	・利用者の日常生活機能を観察し、ケアプランを立てるが、本人・家族が参加する担当者会議利用し、プランに反映させている。 ・必要な時は、他部署の意見ももらいながら、利用者にとってよりよいケアができるよう努力している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月～6ヶ月に1回の見直しと、状況変化時のケアプランの修正を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にサービス計画書を綴り、日誌記入時には目を通して記録する。	○	ケアプランのサービス内容の充実と問題に対する考え・方法等をもっとこまめに記入するようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・外泊・外出等に応じた支援をしている。 ・看取りケアについては、ご家族の要望により対応出来る範囲内で支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアの導入が継続的に行われている。 ・年2回の防災訓練には、消防署からのアドバイス・指導を頂いている。 ・教育機関等の実習の受け入れを行っている。 ・「地域運営推進会議」のメンバーとの連携を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内のケアマネジャーとの会議を月1回実施しており、必要時には他のサービスの利用についての紹介や説明を行い、支援ができるような体制を作っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	「地域運営推進会議」を定期的開催し、そのメンバーの1委員として総合的な問題に関し、話し合いを行い意見等を戴いている。	○	より一層の「地域包括支援センター」との連携を行う。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎月1回、理事長(主治医)の診察を実施し、その他受診が必要な場合は、FAX連絡、又はTEL後外来受診を行っている。 ・急変時は夜間も緊急連絡マニュアルに沿って理事長、及び院長との連絡を実施している。 ・年に1回のバースデイ検査も実施している。 ・かかりつけ医の定期的な往診を気兼ねなく実施して頂いている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・まず、主治医に相談を行い、指示をもらっている。 ・定期的に勉強会を実施し、その場で相談ができる精神科Drに対応方法や指示受診ができるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・各館に1名の看護師の配置があり相談できる。 ・定期的な健康診断を実施している。 ・ホームの看護師不在の場合、法人内の外来の看護師に相談・指示を仰ぎ連携を取っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院された場合、安心されるよう職員は定期的に顔を出し、精神的フォローに努めている。 ・又、病院関係者との情報交換を密にし、早期退院に努めている。 ・家族との情報交換も欠かさないようにしている。		
47	○重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・看護職が中心となり、終末期の段階に応じてカンファレンスを行う事で、情報の共有と意識の統一を図っている。 ・ケアプラン作成時、方針や考えが変化していないか、その都度家族へ確認をしている。 ・必要時は、勤務体制の調整も行うようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・臨時でミーティングを行い、チームとしての心構えを強化し、又十分に対処できるようチームとして意識向上を図っている。 ・並びに、法人内においては、理事長(主治医)の指示のもと、病棟との連携を行うような体制作りもしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・サマリーを参考に直接電話等で確認し情報交換を行い、十分な把握に努め、極力ダメージがないようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の生活歴を把握し、それらを本人の活性化の為の声掛け等にはホーム内では利用するが外部へ漏らすことは一切ない。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○ ・行動する前には確認の声掛けを行い同意を得た上で行動頂いている。本人拒否等がある場合は保留、中止、延期等対処する。 ・又、その原因が何であるかの聞き取りも必要時行う。	一人一人に合わせた説明や声掛けをしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・全体行事等本人の意思を第一にし参加して頂いている。意思決定ができない場合はその方の生活ペースを重視し無理のない過ごし方を考える。 ・本人の趣味などを聞き、好きな時間に好きな事ができる様支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○ ・本人又は家族の希望に添って行っている。 ・お化粧(特に口紅)は、顔の表情、気持ちが現れて来るのでできるだけ塗る様にしている。	○ 外出出来ない様なときは、本人の希望を聞きスタッフがカットする場合もある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○ ・食材切り、皮むき、味見、配膳、台拭き、片付け等利用者一人一人が出来る事を出来る範囲内で無理なくやっている。 ・昼食、夕食は、職員も一緒に食事している。	○ 体調に合わせたメニューや季節感を感じさせる食材の選択、誕生会や行事食も取り入れてる。 一人一人の体調に合わせたメニューや飲み込み、嚥む力等に合わせた調理法や盛り付けに工夫している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・お酒、タバコに関しては現在希望ない為、必要といていない。その他飲み物、おやつは心がけ楽しみとして戴いてる。 ・年行事の中で、本人の好きなビール(ノンアルコール)を飲んで戴き、楽しみの一つにしてもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄コントロールを留意し、薬、食べ物、運動等でスムーズな排泄ができるよう排泄チェック表を活用してトイレ誘導をし、失禁等少なくなるように努めている。	○	サインを見逃さないようにトイレへ誘導し、失禁やオムツ排泄が少なくなるよう努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のほぼ自立されている方は夜間入浴をして頂いている。半介助又は全介助の入浴の方も一人一人ゆっくりと時間に追われることなく実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムに合わせて本人の意思を尊重し休んで頂いている。なるべく夜間熟睡して頂けるよう、日中の生活リズムを整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一日の生活の中でほとんど全介助の方の好みの音楽を流したり、一人一人の興味のありそうな事柄を話したり、楽しみ事を個別でして頂いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃本人がお金を使用する機会はないが、屋外レクリエーションの行事等で買い物する場合はレジでの会計をして頂くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・犬と一緒に散歩、ゴミ出し、買い物等一人一人にあった外出の実施。特にスタッフが戸外へ行くときは可能な方には声掛けし、できるだけ一緒に出かけるようにしている。 ・朝のゴミ出し、買い物、又歩けない方の車椅子での散歩を歩ける方と一緒にやっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度は屋外レクリエーションを計画し全員で出かけている。その時は家族の方にも声掛けし参加して頂いている。(お花見・いちご狩り・回転寿司・熊本城見学・二の丸公園・新港・紅葉狩り・みかん狩り・など、、、)	○	家族を含めた旅行。(日帰りや宿泊旅行)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が家族に用事があって電話を希望される場合は応じている。 日頃から字を書く場面や字を読む場面を取り入れている。 ・現在1名遠方におられる娘さんの定期的な電話(毎週日曜日)を継続してもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方も友人の方も割りときよく来ていただいております本人、家族の希望されたとおり自室での談話、リビングでの面会は自由にして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は、一切行っていない。 ・ベットの立ち上がり、座位バランスを取る為のベット柵は使用している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は終日玄関の施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。 ・見守りには十分気を配っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・安全には常に気を配っている。 ・庭内を行動されている場合もスタッフは見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に危険を伴う刃物類、洗剤類等はスタッフと共に使用する場合を除き、利用者の直接手の届く所には置かないようにしている。	○	定数の確認及び定置に必ず戻す事の徹底。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・転倒等、事故に繋がりそうな情報は、申し送りシート等でスタッフ全員で共有するようにしその都度不安なことがあったら話合っている。 火災訓練を行いスタッフ間でも防火等について話している。 ・歩行始めのフラツキのある方に対しては、近監視・目配り・気配りを常に行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内での勉強会やホーム独自の緊急マニュアルを作成し勉強会を実施、周知しているが実際の訓練としてはまだ十分とはいえない。	○	急変時の応急手当や初期対応の訓練の充実化を図る。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・日頃より、地域住民の方々とのコミュニケーションを大切に、災害時には協力いただけるように心掛けている。 ・尚、「地域運営推進会議」においても同様に啓蒙している。	○	左記の一層の強化を図る。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプラン検討時に家族に説明している。又、家族の方が面会に来られたときなど日頃の様子を話す時にリスクについても説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段に状況をよく観察、知ることにより小さな変化にも気づくので、すこしでもおかしいと思ったら情報交換をし、すぐに対応する。又、記録にも残し共有を図る。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬紙を介護日誌に閉じ確認するようにしている。又、薬の変更時等は、申し送りを徹底して行い、誤薬がないように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給に努めたり、運動、腹部マッサージ等をしている。おやつにさつまいも、豆類など繊維の多い食品を利用。ヨーグルトを積極的に摂って頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの介助の必要な方、自立できる方を把握し、毎食後、一人一人に応じた援助をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食べる量は個別に工夫し、栄養バランスは半年に一度、栄養チェックをしてもらっている。水分量も毎食時、おやつ時、入浴後と確実に飲用して戴いている。 ・水分補給がスムーズに出来ない方はゼリー等に変更して摂取してもらっている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・法人内で作成されたマニュアルに沿って実施している。 ・朝夕の洗面時、イソジンガーグルにて、うがい、歯磨きを行っている。 ・冷蔵庫内の清掃、ペーパータオルの使用、こまめの布団干しなど気をつけている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板、拭布は毎日消毒している。 ・台所周り、トイレは業者の定期的な消毒の実施をしている。 ・食材は二日に一回程度買い物をしてできるだけ新鮮な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・グリーンを基調としたあおばの家の看板や「お気軽にお入りください」の表示をし、入りやすい雰囲気になっている。 ・犬が増えたことで地域の方が犬の散歩中に気軽に立ち寄られる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・住居内は、利用者がくつろげるように配慮し、外庭は、花壇の整備を行い、草木、花、野菜等季節にあった四季折々の環境作りに配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前には全員が腰掛られるソファがあり、皆で談笑でき、庭に面した大きな窓の横にはベンチシートと空間があり、のんびり腰掛け外を眺めたりする逃げ場所ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用していたようなソファやテーブルを配置し、家族写真や絵画、本等を持ち込まれている。又、お位牌を持ち込まれ毎朝お祈りをされている。 ・できるだけ、本人や家族の要望に応えられる体制にしている。危険な物以外特に制限は設けていない。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・夜、休まれる前に自室のエアコンでの温度調整や加湿器での湿度調整に注意している。 ・自室の窓やフロアの扉を開け、利用者の状況や温度に応じて換気をしている。 ・居室・トイレには木炭を置き、消臭に気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりが周囲に設置されている。(共有部分) ・生活区域はバリアフリーとしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレの表示「お便所」と表示。 ・「入浴中・締めないで下さい。」の標示。 ・各部屋の扉の表示は苗字又は写真を本人が見る目線の高さに合わせている。 ・洋服・タオルなど、引き出しの中は、本人が選び易い様、ロール巻きにして収納している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・中庭にて犬の散歩をして頂いたり、ベランダで日光浴をしたり工夫している。 ・各館との交流の場を設けている。 ・庭にて、草取り、花の水掛けを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1、屋外レクリエーション時、利用者の家族同伴をお願いしている。(1～2名)
- 2、「認知症があろうと年を重ねても学習意欲が失われることはない」との理事長の信念の基月に一回理事長が講師となり、利用者及び職員のための勉強会をしている。
- 3、3ユニットあるので、入居者が自由に他のユニットに訪問できるし、訪問した時は、皆で歓迎している。お茶やお菓子を出すなどし、スタッフ間の連携を行っている。
- 4、各ユニット利用者数が六名ということでゆったりとた、又極め細やかなサービスができている。
- 5、アニマルセラピーの意味で犬が家族の一員となり、散歩や食事の世話をして利用者及び職員の心のケアとなっている。

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### 〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

### 〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### 〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### 〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム・あおばの家
（ユニット名）	3ユニット
所在地 （県・市町村名）	熊本市島崎2丁目29番5号
記入者名 （管理者）	2号館：松原保子
記入日	平成19年10月18日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

【あおばの家】＜2号館＞

( ☐ 部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・個人のペースに合わせ、その人らしい生活空間が持てるように接している。 ・家族の思いを受け止め日々のケアに生かすようにしている。 ・笑顔と安心のある暮らしができるような声掛け、雰囲気づくりに心 掛けています。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・新人のオリエンテーション時や定期の朝礼の場で唱話することで浸透を図っている。 ・職員証明証の裏に理念を入れていつでも確認できるようにしている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・家族の方には、家族の集い、及び「あおばずく」というあおば通信に掲載し理解を得ている。 ・地域の方々には、地域運営推進会議、地域との交流時、見学時に配布し説明している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩や買い物等の外出の際、積極的に挨拶をしたり立ち話をしたりしている。 ・犬を飼っていることで近隣の方が犬の散歩途中に立ち寄られている。 ・隣近所の理・美容室を利用している。	○ より一層の地域の方々とのお付き合いの推進。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・町内ゴミ捨て場の清掃当番への参加。 ・地域の清掃や祭事等のイベントに参加。	○ 自治会、老人会、地域活動には、より一層積極的に参加していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・開設当初(平成10年10月)より、「運営懇話会」として発足し、現在では「地域運営推進会議」において地域住民の方や、各自治体関係等と情報交換を行い尚一層の充実を図るようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価結果を基に、それらの意義を理解し、具体的な改善に取り組んでいる。 ・自己評価票の作成に当っては、職員全員での考え方、見方を基にまとめ上げ仕上げている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者の日々の生活をビデオに撮り、サービスの実際や雰囲気を報告。 ・定期的に開催し、利用者やその家族、地域の関係者から要望、助言を頂き、あおばの家が提供するサービスを明らかにしサービスの質の向上に努めている。 ・会議の結果をホールにご報告書として掲示している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市より介護相談専門員の方が定期的に来所され、利用者及び家族の方々から話を聞き、その内容のフィードバックで情報を得て職員に回覧し、サービスの質の向上に活かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内、及び福祉部での研修会へ参加し、他職員への情報提供行い、共有を図り支援できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修参加からの情報及び新聞、ニュース等から得た情報は定期的な勉強会で全職員に徹底し防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり、契約時に分かりやすく説明し、不安や疑問等を解消した後に契約を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・市より介護相談専門員の方が定期的に来所され、利用者の方々から話を聞き、その内容のフィードバックで情報を得て職員への回覧を通し運営に反映している。 ・日常生活の中での表情などより、いつもと違う場合等は何かがあったのかを聞き取り、それを職員間にて話し合い、ケアに反映させている。		
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・健康状態については面会時、TEL連絡をする時等に状況報告、又検査を実施した場合は検査データを郵送する。 ・金銭管理については個人台帳管理し、月1回台帳に領収書を添付して郵送している。 ・職員の異動については「あおばずく」に掲載し、又「家族の集い」時に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時や担当者会議等、意見を聞く場を設け意見があったときは次に活かすための情報の共有を図り運営に反映させている。 ・並びに「家族の集い」の在り方を各ユニット毎に分かれて行い、より細かな意見交換ができるような形式で行っている。	○	・家族会でのアンケート(意見交換等)の記入。 ・「ご意見箱」を設置し、それらの意見を運営に反映させる。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な合同ミーティング及び各館でのミーティングを行い意見の反映を図っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常勤、パートタイマーの職員をシフトにより組み合わせローテーションを組み勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・専門性、年齢、人柄などを考慮し法人内のローテーションによる人選で必要最低限度に抑えられている。 ・代わった場合は、各利用者の性格等を十分に申し送り、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員は定期的及びフォローアップ研修に参加しており、研修報告を通して、他の職員への情報提供、共有を図っている。 ・尚、外部での研修等についても、積極的に参加するよう、又偏った職員での参加にならないように配慮している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月毎(奇数月)実施の、「グループホーム連絡協議会」に参加し、意見交換や勉強会をすることでサービスの質の向上に努めている。	○	他施設への交換実習で他施設のことも知る。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・法人内の親睦会やホーム内の親睦会の開催。 ・個人目標管理で悩みを聴取しストレスの軽減を図る。 ・法人内の臨床心理士への相談。 ・リフレッシュ休暇の有効活用。(年度内＝3日連続休暇制あり)		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・自己目標を立てモチベーションの維持、目標達成できるように、管理者からの助言や指導及び法人からのバックアップ。 ・目標達成度に応じた給与査定。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・体験入所によって不安なく入所頂けるようにしている。 ・自宅や施設等に直接本人に面会に行き、聴く機会をつくっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自由に住居内の見学が出来、説明を受ける事が出来、十分に安心されるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・申し込み時に十分な意見や相談を聞き、担当ケアマネジャーと改めて相談して戴く様に勧めている。 ・担当ケアマネジャーとの情報交換。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・いきなりの入居ではなく、まずは体験入居をして頂く中で、自宅とホームとの行き来を利用しながら徐々に馴染んで戴く様にしている。 ・又、家族ともその間の状況のやり取りを十分に行うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人の入居前の様子等を把握し、話題にし話し合う時間を設け、本人との信頼関係を築けるよう努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・「家族の集い」時に機会を設け、相談を受けたり、思いを伝えてもらっている。 ・面会時も不安なことがないかお尋ねしている。	○	ご家族の気持ちを聞くことは勿論、スタッフ側からもご本人の生活状況等をもっと情報提供し、より一層の信頼関係を築くようにする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・いつでも面会に来て頂けるような声掛けと雰囲気作りを作っている。又、「家族の集い」への参加を呼びかけ多くのご家族の参加をいただいている。	○	ご家族がもっと気軽に参加できる行事を多く作る。又日頃のご利用者の生活を知ってもらう為に面会時にゆっくり過ごして頂ける雰囲気を作る。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族の方と気軽に外出できるよう、又気軽に訪問していただけるような声掛け・雰囲気作りに努力している。 ・時に、友人の方の訪問もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・同じ趣味を持つご利用者には、一緒に作業(レクリエーション)をして頂き、コミュニケーションが取りづらいご利用者にはスタッフが間に入り話題の共有を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	催し物への参加、呼びかけを掲示により行い、希望があれば自由に参加していただけるような体制としている。	○	催し物の内容により、参加への呼びかけ等を直接行うように検討したい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝のレクリエーション時に、一人一人との関わりによりその日の意向を察知し、思いに添う様努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・フェイスシートを作成し活用している。 ・個々の趣味・特技・興味など一覧表を作成し、日常の生活に活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・サービス計画、及び実施表の活用 ・業務申し送りシートの活用 ・必要時、介護日誌に残し、状況を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意見を取り入れプランに反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月～6ヶ月に1回の見直しと、状況変化時のケアプランの修正を行っている。	○	作成時期が計画時期とずれる場合があるためずれないようにする。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にサービス計画書を綴り、日誌記入時には目を通して、プランに則して記録する。	○	ケアプランのサービス内容の充実と問題に対する考え・方法等をもっとこまめに記入するようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・外泊・外出等に応じた支援をしている。 ・看取りケアについては、これまでも対応してきたが、今後も指針に準じてご家族の要望に応え支援していく。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・調理・三味線・レクリエーションへの参加など、ボランティアの導入が継続的に行われている。 ・年2回の防災訓練には、消防署からのアドバイス・指導を頂いている。 ・教育機関等の実習の受け入れを行っている。 ・「地域運営推進会議」のメンバーとの連携を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・法人内のケアマネジャーとの会議を月1回実施しており、必要時には他のサービスの利用についての紹介や説明を行い、支援ができるような体制を作っている。 ・リハサポート部門によるマッサージ等のサービスを受け、下肢筋力アップを図っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	「地域運営推進会議」を定期的開催し、そのメンバーの1委員として総合的な問題に関し、話し合いを行い意見等を戴いている。	○	より一層の「地域包括支援センター」との連携を行う。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎月1回、理事長(主治医)の診察を実施し、その他受診が必要な場合は、FAX連絡、又はTEL後外来受診を行っている。 ・急変時は夜間も緊急連絡マニュアルに沿って理事長、及び院長との連絡を実施している。 ・年に1回のバースデイ検査も実施している。 ・かかりつけ医の定期的な往診を気兼ねなく実施して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・まず、主治医に相談を行い、指示をもらっている。 ・定期的に勉強会を実施し、その場で相談ができる精神科Drに対応方法や指示受診ができるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・各館に1名の看護師の配置があり相談できる。 ・定期的な健康診断を実施している。 ・ホームの看護師不在の場合、法人内の外来の看護師に相談・指示を仰ぎ連携を取っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院された場合、安心されるよう職員はできる限り顔を出し、精神的フォローに努めている。 ・又、病院関係者との情報交換を密にし、早期退院に努めている。 ・家族との情報交換も欠かさないようにしている。		
47	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・看護職が中心となり、終末期の段階に応じてカンファレンスを行う事で、情報の共有と意識の統一を図っている。 ・ケアプラン作成時、方針や考えが変化していないか、その都度家族へ確認をしている。 ・必要時は、勤務体制の調整も行うようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・臨時でミーティングを行い、チームとしての心構えを強化し、又十分に対処できるようチームとして意識向上を図っている。 ・並びに、法人内においては、理事長(主治医)の指示のもと、病棟との連携を行うような体制作りもしている。 ・家族と密に連絡を取り、家族の希望があれば、共にケアを行っている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・サマリーを参考に情報の共有、又は直接電話等で確認するなどの情報交換を行っている。 ・十分な把握に努め、極力ダメージがないようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・個人情報やプライバシーに関する指針を掲示し、職員の意識付けを図っている。 ・一人一人の生活歴を把握し、それらを本人の活性化の為に声掛け等にはホーム内では利用するが、外部へ漏らすことは一切ない。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・行動する前には利用者に合わせた声掛けを行い、表情を読み取った上で行動頂いている。援助の必要時に本人拒否等がある場合は保留、中止など間を置き延期等対処している。 ・買い物や散歩等、行動の中から読み取り支援している。 ・又、その原因が何であるかの聞き取りも必要時行う。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体行事等本人の意思を第一にし参加して頂いている。意思決定ができない場合はその方の生活ペースを重視し無理のない過ごし方を考えるようにしている。	○  行動として示されない方についても、思いへの洞察力を養い支援したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・家族と相談しながら、本人の好みの衣服を選んで意向確認の上支援している。 ・理・美容は、行き付けの店に行き、家族の希望を組み入れている。	○  外出拒否での美容については、出張依頼を考えている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食材切り、皮むき、味見、配膳、台拭き、片付け等利用者一人一人が出来る事を出来る範囲内で無理なくやっている。 ・昼食、夕食は、職員も一緒に食事している。	○  体調に合わせたメニューや季節感を感じさせる食材の選択、誕生会や行事食も取り入れてる。一人一人の体調に合わせたメニューや飲み込み、嚥む力等に合わせた調理法や盛り付けに工夫している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・お酒は1回／週提供し、楽しみにされている。 ・その他飲み物、おやつは好みに添って楽しみとして戴いている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄コントロールを留意し、薬、食べ物、運動等でスムーズな排泄ができるよう排泄チェック表を活用してトイレ誘導をし、失禁等少なくなるように努めている。	○	サインを見逃さないようにトイレへ誘導し、失禁やオムツ排泄が少なくなるよう努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	半介助又は全介助の入浴の方も一人一人ゆつくりと時間に追われることなく実施している。	○	夜間の汚染時は、状況により入浴して戴けるよう配慮している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・それぞれの生活リズムに合わせ本人の意思を尊重し休んで頂いている。なるべく夜間熟睡して頂けるよう、日中の生活リズムを整えている。 ・寝付けない時は、温かい飲み物や、そばに付き添い安心して戴いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・一日の中で折に触れ、その方の好みの音楽、ダンス、歌など楽しんで戴いている。 ・一人一人の興味のありそうな話題作りにより、お話をして戴いている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・日頃本人がお金を使用する機会はないが、屋外レクリエーションの行事等で買い物する場合はレジでの会計をして頂くようにしている。 ・希望される方は、お小遣いで好みの物を購入されている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ゴミ出し、買い物等一人一人にあった外出の実施。特にスタッフが戸外へ行くときは可能な方には声掛けし、できるだけ一緒に出かけるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度は屋外レクリエーションを計画し全員で出かけている。その時は家族の方にも声掛けし参加して頂いている。 (お花見・いちご狩り・回転寿司・熊本城見学・二の丸公園・新港・紅葉狩り・みかん狩り・など、、、)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に職員による電話の仲介や手紙のやり取りの支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方も友人の方も割りときよく来ていただいております本人、家族の希望されたとおり自室での談話、リビングでの面会は自由にして頂いている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は、一切行っていない。 ・ベットの立ち上がり、座位バランスを取る為のベット柵は使用している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は終日玄関の施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。 ・見守りには十分気を配っている。 ・行動パターンを察知し、外に出られる時は後を追ひ、思いに添えるよう配慮している。	○	頻回に外に出られる事からの、疲れやストレスを考え、場面作りで思いを他に移すことの工夫に努める。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・安全には常に気を配っている。 ・庭内を行動されている場合もスタッフは見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に危険を伴う刃物類、洗剤類等はスタッフと共に使用する場合を除き、利用者の直接手の届く所には置かないようにしている。	○	定数の確認及び定置に必ず戻す事の徹底。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・転倒等、事故に繋がりそうな情報は、申し送りシート等でスタッフ全員で共有するようにしその都度不安なことがあったら話合っている。 火災訓練を行いスタッフ間でも防火等について話している。 ・又、居住環境の整備もその都度検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内での勉強会やホーム独自の緊急マニュアルを作成し勉強会を実施、周知しているが実際の訓練としてはまだ十分とはいえない。	○	急変時の応急手当や初期対応の訓練の充実化を図る。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・日頃より、地域住民の方々とのコミュニケーションを大切に、災害時には協力いただけるように心掛けている。 ・尚、「地域運営推進会議」においても同様に啓蒙している。	○	左記の一層の強化を図る。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプラン検討時に家族に説明している。又、家族の方が面会に来られたときなど日頃の様子を話す時にリスクについても説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	その日、その時の体調をよく観察、知ることにより小さな変化にも気づくので、すこしでもおかしいと思ったら情報交換をし、すぐに対応する。又、記録にも残し共有を図るように努めている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬紙を介護日誌に閉じ確認するようにしている。又、薬の変更時等は、申し送りを徹底して行い、誤薬がないように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給に努めたり、運動、腹部マッサージ等をしている。おやつにさつまいも、豆類など繊維の多い食品を利用。ヨーグルトを積極的に摂って頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの介助の必要な方、自立できる方を把握し、毎食後、一人一人に応じた援助をしている。又、出血や腫れ、痛みなどの場合、法人内の歯科衛生士に相談しアドバイスをもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個別に工夫し、栄養バランスは半年に一度、栄養チェックをしてもらっている。水分量も毎食時、おやつ時、入浴後と確実に飲用して戴いている。必要時には、記録し意識付けを行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人内で作成されたマニュアルに沿って実施している。寝具は一覧表を参考に清潔に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まな板、拭布は毎日消毒している。</li> <li>・台所周り、トイレは業者の定期的な消毒の実施をしている。</li> <li>・食材は二日に一回程度買い物をしてできるだけ新鮮な食材を使用している。</li> </ul>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グリーンを基調としたあおばの家の看板や「お気軽にお入りください」の表示をし、入りやすい雰囲気になっている。</li> <li>・犬が増えたことで地域の方が犬の散歩中に気軽に立ち寄られる。</li> <li>・入り口の花壇には、季節に応じた花を植えている。</li> </ul>		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節を感じさせる料理や、おやつなど行事の中にも取り入れている。</li> <li>・共同の庭には、花や草木、野菜作りなど四季折々の環境作りをしている。</li> <li>・西陽が入る時は、ブラインドで調節し、直射日光による刺激を防いでいる。</li> </ul>		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビの前には全員が腰掛られるソファがあり、皆で談笑でき、庭に面した大きな窓の横にはベンチシートと空間があり、のんびり腰掛け外を眺めたりする逃げ場所ができています。</li> <li>・窓から見える夕陽を眺め、語り合われる一時もある。</li> </ul>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用していた寝具やテーブル、椅子を配置し、家族写真や絵画を持ち込まれている。又、昔使われていた剣道の道具なども置かれている。 ・できるだけ、本人や家族の要望に応えられる体制にしている。危険な物以外特に制限は設けていない。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・夜、休まれる前に自室のエアコンでの温度調整や加湿器での湿度調整に注意している。 ・自室の窓やフロアーの扉を開け、利用者の状況や温度に応じて換気をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手すりが周囲に設置されている。(共有部分) ・生活区域はバリアフリーとしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレの表示「お便所」と表示。 ・各部屋の扉の表示を個人により氏名又は写真を本人が見る目線の高さに合わせている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・中庭やベランダで日光浴をしたり、体操やレクリエーションができるように工夫している。 ・各館との交流の場としている。		



V. サービスの成果に関する項目		「あおばの家」＜2号館＞	
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1、屋外レクリエーション時、利用者の家族同伴をお願いしている。(1～2名)
- 2、「認知症があろうと年を重ねても学習意欲が失われることはない」という理事長の信念のもと月に一回理事長が講師となり利用者と職員のための勉強会をしている。
- 3、3ユニットあるためユニット間の交流、地域の方々と話すように縁側交流がある。
- 4、各ユニット利用者数が六名ということでゆったりとした、又極め細やかなサービスができている。
- 5、アニマルセラピーの意味で犬が家族の一員となり、散歩や食事の世話をし利用者及び職員の心のケアとなっている。



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### 〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

### 〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### 〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### 〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム・あおばの家
（ユニット名）	3ユニット
所在地 （県・市町村名）	熊本市島崎2丁目29番5号
記入者名 （管理者）	3号館：山 口 啓 子
記入日	平成 19年10月17日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

【あおばの家】＜3号館＞

( ☐ 部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人のペースに合わせ、その人らしい生活空間が持てるように接している。</li> <li>・家族の思いを受け止め日々のケアに生かすようにしている。</li> <li>・笑顔と安心のある暮らしができるような声掛け、雰囲気づくりに心掛けている。</li> </ul>	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人のオリエンテーション時や定期の朝礼の場で唱話することで浸透を図っている。</li> <li>・職員証明証の裏に理念を入れていつでも確認できるようにしている。</li> </ul>	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の方には、家族の集い、及び「あおばずく」というあおば通信に掲載し理解を得ている。</li> <li>・地域の方々には、地域運営推進会議、地域との交流時、見学时に配布し説明している。</li> </ul>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩や買い物等の外出の際、積極的に挨拶をしたり立ち話をしたりしている。</li> <li>・犬を飼っていることで近隣の方が犬の散歩途中に立ち寄られている。</li> <li>・隣近所の理・美容室を利用している。</li> </ul>	○ より一層の地域の方々とのお付き合いの推進。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内ゴミ捨て場の清掃当番への参加。</li> <li>・地域の清掃や祭事等のイベントに参加。</li> </ul>	○ 自治会、老人会、地域活動には、より一層積極的に参加していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・開設当初(平成10年10月)より、「運営懇話会」として発足し、現在では「地域運営推進会議」において地域住民の方や、各自自治体関係等と情報交換を行い尚一層の充実を図るようにしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・外部評価結果を基に、それらの意義を理解し、具体的な改善に取り組んでいる。 ・自己評価票の作成に当っては、職員全員での考え方、見方を基にまとめ上げ仕上げている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・利用者の日々の生活をビデオに撮り、サービスの実際や雰囲気報告。 ・定期的に開催し、利用者やその家族、地域の関係者から要望、助言を頂き、あおばの家が提供するサービスを明らかにしサービスの質の向上に努めている。 ・会議の結果をホールにご報告書として掲示している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市より介護相談専門員の方が定期的に来所され、利用者及び家族の方々から話を聞き、その内容のフィードバックで情報を得て職員に回覧し、サービスの質の向上に活かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内、及び福祉部での研修会へ参加し、他職員への情報提供行い、共有を図り支援できるようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修参加からの情報及び新聞、ニュース等から得た情報は定期的な勉強会で全職員に徹底し防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間をとり、契約時に分かりやすく説明し、不安や疑問等を解消した後に契約を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・市より介護相談専門員の方が定期的に来所され、利用者の方々から話を聞き、その内容のフィードバックで情報を得て職員への回覧を通し運営に反映している。 ・日常生活の中での表情などより、いつもと違う場合等は何かがあったのかを聞き取り、それを職員間にて話し合い、ケアに反映させている。		
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・健康状態については面会時、TEL連絡をする時等に状況報告、又検査を実施した場合は検査データを郵送する。 ・金銭管理については個人台帳管理し、月1回台帳に領収書を添付して郵送している。 ・職員の異動については「あおばずく」に掲載し、又「家族の集い」時に報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・面会時や担当者会議等、意見を聞く場を設け意見があったときは次に活かすための情報の共有を図り運営に反映させている。 ・並びに「家族の集い」の在り方を各ユニット毎に分かれて行い、より細かな意見交換ができるような形式で行っている。	○	・家族会でのアンケート(意見交換等)の記入。 ・夕食を兼ねた家族会を開催しリラックスした雰囲気の中でコミュニケーションを図り意見等を聞き運営に反映している。 ・「ご意見箱」を設置し、それらの意見を運営に反映させる。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な合同ミーティング及び各館でのミーティングを行い意見の反映を図っている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	常勤、パートタイマーの職員をシフトにより組み合わせローテーションを組み勤務の調整に努めている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・専門性、年齢、人柄などを考慮し法人内のローテーションによる人選で必要最低限度に抑えられている。 ・代わった場合は、各利用者の性格等を十分に申し送り、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・職員は定期的及びフォローアップ研修に参加しており、研修報告を通して、他の職員への情報提供、共有を図っている。 ・尚、外部での研修等についても、積極的に参加するよう、又偏った職員での参加にならないように配慮している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月毎(奇数月)実施の、「グループホーム連絡協議会」に参加し、意見交換や勉強会をすることでサービスの質の向上に努めている。	○	他施設への交換実習で他施設のことも知る。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・法人内の親睦会やホーム内の親睦会の開催。 ・個人目標管理で悩みを聴取しストレスの軽減を図る。 ・法人内の臨床心理士への相談。 ・リフレッシュ休暇の有効活用。(年度内＝3日連続休暇制あり)		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・自己目標を立てモチベーションの維持、目標達成できるように、管理者からの助言や指導及び法人からのバックアップ。 ・目標達成度に応じた給与査定。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・体験入所によって不安なく入所頂けるようにしている。 ・自宅や施設等に直接本人に面会に行き、聴く機会をつくっている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	自由に住居内の見学が出来、説明を受ける事が出来、十分に安心されるように努めている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・申し込み時に十分な意見や相談を聞き、担当ケアマネジャーと改めて相談して戴く様に勧めている。 ・担当ケアマネジャーとの情報交換。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・いきなりの入居ではなく、まずは体験入居をして頂く中で、自宅とホームとの行き来を利用しながら徐々に馴染んで戴く様にしている。 ・又、家族ともその間の状況のやり取りを十分に行うようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・本人の入居前の様子等を把握し、話題にし話し合う時間を設け、本人との信頼関係を築けるよう努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・「家族の集い」時に機会を設け、相談を受けたり、思いを伝えてもらっている。 ・面会時も不安なことがないかお尋ねしている。	○	ご家族の気持ちを聞くことは勿論、スタッフ側からのご本人の生活状況等をもっと情報提供し、より一層の信頼関係を築くようにする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・いつでも面会に来て頂けるような声掛けと雰囲気作りを作っている。又、「家族の集い」への参加を呼びかけ多くのご家族の参加をいただいている。	○	ご家族がもっと気軽に参加できる行事を多く作る。又日頃のご利用者の生活を知ってもらう為に面会時にゆっくり過ごして頂ける雰囲気を作る。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族の方と気軽に外出できるよう、又気軽に訪問していただけるような声掛け・雰囲気作りに努力している。 ・時に、友人の方の訪問もある。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・同じ趣味を持つご利用者には、一緒に作業(レクリエーション)をして頂き、コミュニケーションが取りづらいご利用者にはスタッフが間に入り話題の共有を図っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	催し物への参加、呼びかけを掲示により行い、希望があれば自由に参加していただけるような体制としている。	○	催し物の内容により、参加への呼びかけ等を直接行うように検討したい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	朝のレクリエーション時に、一人一人との関わりにより表情を観察し、変化があれば検討し対応している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・フェイスシートを作成し活用している。 ・個々の趣味・特技・興味など一覧表を作成し、日常の生活に活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・サービス計画、及び実施表の活用 ・業務申し送りシートの活用		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人やご家族の意見を取り入れプランに反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月～6ヶ月に1回の見直しと、状況変化時のケアプランの修正を行っている。	○	作成時期が計画時期とずれる場合があるためずれないようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護日誌にサービス計画書を綴り、日誌記入時には目を通して記録する。 ・問題意識へのつながりが薄く、その場限りになっている。	○	ケアプランのサービス内容の充実と問題に対する考え・方法等をもっとこまめに記入するようにし、介護計画の実践や見直しに活かすようにする。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・外泊・外出等に応じた支援をしている。 ・看取りケアについては、ご家族の要望により対応出来る範囲内で支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・ボランティアの導入が継続的に行われている。 ・年2回の防災訓練には、消防署からのアドバイス・指導を頂いている。 ・教育機関等の実習の受け入れを行っている。 ・「地域運営推進会議」のメンバーとの連携を行っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・法人内のケアマネジャーとの会議を月1回実施しており、必要時には他のサービスの利用についての紹介や説明を行い、支援ができるような体制を作っている。 ・医療が必要となった場合、家族の希望に応じて訪問看護の支援がなされる場合がある。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	「地域運営推進会議」を定期的に開催し、そのメンバーの1委員として総合的な問題に関し、話し合いを行い意見等を戴いている。	○	より一層の「地域包括支援センター」との連携を行う。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・毎月1回、理事長(主治医)の診察を実施し、その他受診が必要な場合は、FAX連絡、又はTEL後外来受診を行っている。 ・急変時は夜間も緊急連絡マニュアルに沿って理事長、及び院長との連絡を実施している。 ・年に1回のバースデイ検査も実施している。 ・かかりつけ医の定期的な往診を気兼ねなく実施して頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・まず、主治医に相談を行い、指示をもらっている。 ・定期的に勉強会を実施し、その場で相談ができる精神科Drに対応方法や指示受診ができるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・各館に1名の看護師の配置があり相談できる。 ・定期的な健康診断を実施している。 ・ホームの看護師不在の場合、法人内の外来の看護師に相談・指示を仰ぎ連携を取っている。	○	看護職が居るということで、あまりにも頼り過ぎて、介護職が医療に関する判断能力に欠けている所があるため、日々のケアの中でもっと変化への気付きをもって仕事をするようにしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院された場合、安心されるよう職員は定期的に顔を出し、精神的フォローに努めている。 ・又、病院関係者との情報交換を密にし、早期退院に努めている。 ・家族との情報交換も欠かさないようにしている。		
47	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・看護職が中心となり、終末期の段階に応じてカンファレンスを行う事で、情報の共有と意識の統一を図っている。 ・ケアプラン作成時、方針や考えが変化していないか、その都度家族へ確認をしている。 ・必要時は、勤務体制の調整も行うようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・臨時でミーティングを行い、チームとしての心構えを強化し、又十分に対処できるようチームとして意識向上を図っている。 ・並びに、法人内においては、理事長(主治医)の指示のもと、病棟との連携を行うような体制作りもしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・サマリーを参考に直接電話等で確認し情報交換を行い、十分な把握に努め、極力ダメージがないようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の生活歴を把握し、それらを本人の活性化の為の声掛け等にはホーム内では利用するがホーム内であり外部へ漏らすことは一切ない。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	・行動する前には確認の声掛けを行い同意を得た上で行動頂いている。本人拒否等がある場合は保留、中止、延期等対処する。 ・又、その原因が何であるかの聞き取りも必要時行う。	○	一人一人に合わせた説明や声掛けをしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全体行事等本人の意思を第一にし参加して頂いている。意思決定ができない場合はその方の生活ペースを重視し無理のない過ごし方を考える。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・本人又は家族の希望に添って行っている。 ・お化粧(特に口紅)は、顔の表情、気持ちが現れて来るのでできるだけ塗る様になっている。	○	外出出来ない様なときは、本人の希望を聞きスタッフがカットする場合もある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・食材切り、皮むき、味見、配膳、台拭き、片付け等利用者一人一人が出来る事を出来る範囲内で無理なくやっている。 ・昼食、夕食は、職員も一緒に食事している。	○	体調に合わせたメニューや季節感を感じさせる食材の選択、誕生会や行事食も取り入れてる。 一人一人の体調に合わせたメニューや飲み込み、嚥む力等に合わせた調理法や盛り付けに工夫している。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコに関しては現在希望ない為、必要といていない。その他飲み物、おやつは心がけ楽しみとして頂いてる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄コントロールを留意し、薬、食べ物、運動等でスムーズな排泄ができるよう排泄チェック表を活用してトイレ誘導をし、失禁等少なくなるように努めている。	○	サインを見逃さないようにトイレへ誘導し、失禁やオムツ排泄が少なくなるよう努めている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴のほぼ自立されている方は夜間入浴をして頂いている。半介助又は全介助の入浴の方も一人一人ゆっくりと時間に追われることなく実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムに合わせ本人の意思を尊重し休んで頂いている。なるべく夜間熟睡して頂けるよう、日中の生活リズムを整えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・一日の生活の中でほとんど全介助の方の好みの音楽を流したり、一人一人の興味のありそうな事柄を話したり、楽しみ事を個別でして戴いている。 ・洗濯物たたみ・干し・新聞取り・配膳・後片付け・塗り絵・短歌や俳句作り・食材切り等はほぼ役割が決まっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日頃本人がお金を使用する機会はないが、屋外レクリエーションの行事等で買い物する場合はレジでの会計をして頂くようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	犬と一緒に散歩、ゴミ出し、買い物等一人一人にあった外出の実施。特にスタッフが戸外へ行くときは可能な方には声掛けし、できるだけ一緒に出かけるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度は屋外レクリエーションを計画し全員で出かけている。その時は家族の方にも声掛けし参加して頂いている。(お花見・いちご狩り・回転寿司・熊本城見学・二の丸公園・新港・紅葉狩り・みかん狩り・など、、、)	○	家族を含めた旅行。(日帰りや宿泊旅行)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族に用事があつて電話を希望される場合は応じている。 日頃から字を書く場面や字を読む場面を取り入れている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方も友人の方も割りときよく来ていただいております本人、家族の希望されるとき自室での談話、リビングでの面会は自由にして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束は、一切行っていない。 ・ベットの立ち上がり、座位バランスを取る為のベット柵は使用している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・日中は終日玄関の施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。 ・見守りには十分気を配っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・安全には常に気を配っている。 ・庭内を行動されている場合もスタッフは見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に危険を伴う刃物類、洗剤類等はスタッフと共に使用する場合を除き、利用者の直接手の届く所には置かないようにしている。	○	定数の確認及び定置に必ず戻す事の徹底。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒等、事故に繋がりそうな情報は、申し送りシート等でスタッフ全員で共有するようにしその都度不安なことがあったら話合っている。 火災訓練を行いスタッフ間でも防火等について話している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内での勉強会やホーム独自の緊急マニュアルを作成し勉強会を実施、周知しているが実際の訓練としてはまだ十分とはいえない。	○	急変時の応急手当や初期対応の訓練の充実化を図る。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・日頃より、地域住民の方々とのコミュニケーションを大切に、災害時には協力いただけるように心掛けている。 ・尚、「地域運営推進会議」においても同様に啓蒙している。	○	左記の一層の強化を図る。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプラン検討時に家族に説明している。又、家族の方が面会に来られたときなど日頃の様子を話す時にリスクについても説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段から状況をよく観察、知ることにより小さな変化にも気づくので、すこしでもおかしいと思ったら情報交換をし、すぐに対応する。又、記録にも残し共有を図る。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬紙を介護日誌に閉じ確認するようにしている。又、薬の変更時等は、申し送りを徹底して行い、誤薬がないように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給に努めたり、運動、腹部マッサージ等をしている。おやつにさつまいも、豆類など繊維の多い食品を利用。ヨーグルトを積極的に摂って頂いている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの介助の必要な方、自立できる方を把握し、毎食後、一人一人に応じた援助をしている。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個別に工夫し、栄養バランスは半年に一度、栄養チェックをしてもらっている。水分量も毎食時、おやつ時、入浴後と確実に飲用して戴いている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	法人内で作成されたマニュアルに沿って実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板、拭布は毎日消毒している。 ・台所周り、トイレは業者の定期的な消毒の実施をしている。 ・食材は二日に一回程度買い物をしてできるだけ新鮮な食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・グリーンを基調としたあおばの家の看板や「お気軽にお入りください」の表示をし、入りやすい雰囲気になっている。 ・犬が増えたことで地域の方が犬の散歩中に気軽に立ち寄られることも多い。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・住居内は、利用者がくつろげるように配慮し、外庭は、花壇の整備を行い、草木、花、野菜等季節にあった四季折々の環境作りに配慮している。	○	天窗より日光が直接入り、午前中、まぶしさを感じる為、現在は日よけのカーテンを取り付けるようにしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前には全員が腰掛られるソファがあり、皆で談笑でき、庭に面した大きな窓の横にはベンチシートと空間があり、のんびり腰掛け外を眺めたりする逃げ場所ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使用していたようなソファやテーブルを配置し、家族写真や絵画、本等を持ち込まれている。又、お位牌を持ち込まれ毎朝お祈りをされている。 ・できるだけ、本人や家族の要望に応えられる体制にしている。危険な物以外特に制限は設けていない。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・夜、休まれる前に自室のエアコンでの温度調整や加湿器での湿度調整に注意している。 ・自室の窓やフロアーの扉を開け、利用者の状況や温度に応じて換気をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレ内の手すりの設置。 ・手すりが周囲に設置されている。(共有部分) ・生活区域はバリアフリーとしている。 ・ソファのクッション度合いや、ベッドの高さ、食卓テーブルと椅子の高さ等の配慮。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレの表示「お手洗い」と表示。 ・各部屋の扉の表示は苗字又は写真を本人が見る目線の高さに合わせている。 ・事務室にはあえて「職員室」と標示。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・中庭にて犬の散歩をして頂いたり、ベランダで日光浴をしたり工夫している。 ・各館との交流の場を設けている。		

V. サービスの成果に関する項目		「あおばの家」＜3号館＞	
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 1、屋外レクリエーション時、利用者の家族同伴をお願いしている。(1～2名)
- 2、「認知症があろうと年を重ねても学習意欲が失われることはない」という理事長の信念のもと月に一回理事長が講師となり利用者と職員のための勉強会をしている。
- 3、3ユニットあるためユニット間の交流、地域の方々と話すように縁側交流がある。
- 4、各ユニット利用者数が六名ということでゆったりとした、又極め細やかなサービスができている。
- 5、アニマルセラピーの意味で犬が家族の一員となり、散歩や食事の世話をし利用者及び職員の心のケアとなっている。
- 6、全体的な「家族の集い」の他に3号館独自の家族会をしている。

